



Title	a+α 美学研究 第14号 執筆者紹介
Author(s)	
Citation	a+α 美学研究. 2023, 14
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/103379
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

a+a 美学研究

Studies in Aesthetics and Art Criticism

編集：大阪大学大学院
人文学研究科美学研究室

13号 デザイン新潮流

はじめに
高安啓介

3Dプリンタ時代の工芸家像
北村仁美

現代写真と古陶磁
宮川智美

無装饰から超装饰へ
高安啓介

匂いのデザイン
岩崎陽子

長寿時代を生きるための運動のデザイン
近藤存志

人間の目から考える景観デザイン
山内貴博

現代的ランダスケープと公共空間
佐藤紗良

人間の脳・機械の脳・環境の脳
高安啓介

デザイン哲学の陥穰
—スローターダイクにおける「島化」と「泡塊」
田中 均

裁量労働制の寓話
—ヴェネツィアの彫刻家から博多の仙匠まで
橋本順光

風をデザインする
平井直子

Gマークは「共有と協働」の時代へ
森山明子

「写真」
勝又公仁彦

美学はそんなに美しくない

伝統の理解はいかに未来の生活につながるのでしょうか。
複数の文化のあいだで共通する価値はあるのでしょうか。
技術の進歩によって人間の知覚はどう変化しているのでしょうか。
機械にはできない人間らしい創造とは何なのでしょうか。
芸術家はいかに社会の間にかかわるのでしょうか。
社会活動のなかで美を問うことはあるのでしょうか。
芸術作品はどれほど日常の品々より優れているのでしょうか。
紙の雑誌というメディアはどのくらい意味をもつのでしょうか。
たまたまこの冊子を手にとってしまった皆さん。
数々の問い合わせから、思わず可能性がひらかれるかもしれません。

12号 シアトロクラシー 観客の美学と政治学

序論

演劇の批判と弁護
クリストフ・メンケ

ルソーとシアトロクラシー
—『ランペール氏への手紙』における「見せもの」の近代性
田中 均

モーリッツ「演劇への不幸な傾倒」における演劇狂と健全な市民
—教育的言説の批判的考察
梶原将志

「大衆をほぐす」
—シアトロクラシーと映画（館）
海老根 剛

音楽=劇の批判的構成のために
—ベンヤミンとアドルノの美学を手がかりに
柿木伸之

今日のアートにおける批判とは何か—参加型アートを中心に
石田圭子

演劇とアール・ブリュット
—ヴァレール・ノヴァリナの俳優論を中心に
井上由里子

「花の下」連歌における〈観客〉の発生と融解
土田耕輔

ボエティウス『音楽教程』における音楽觀
—音楽の三分類と音楽家の規定をめぐって
田之頭一知

音楽の欠片1 開演前
河口 篤

美学は言葉を考える
高安啓介

エッセイを書く面白さ
山下泰春

音楽の欠片2 勝手な聴き手
河口 篤

執筆者紹介

高安啓介 | たかやす・けいすけ

1971年生まれ。大阪大学大学院人文学研究科教授。大阪大学大学院文学研究科博士課程修了。博士（文学）。愛媛大学法文学部准教授を経て現職。専門はデザイン思想史。著書『近代デザインの美学』（みすず書房、2015年）。

田中 均 | たなか・ひとし

1974年生まれ。大阪大学大学院人文学研究科准教授。専門は、ドイツ語圏を中心とする近代美学、芸術における「参加」をめぐる諸問題。著書に『ドイツ・ロマン主義美学』（御茶の水書房、2011年）、訳書にクリストフ・メンケ『芸術の至高性』（共訳、御茶の水書房、2011年）など。

武澤里映 | たけざわ・りえ

兵庫県立美術館学芸員。大阪大学大学院文学研究科博士前期課程2年。アラン・カブローとハブニングの研究。専門は、アメリカおよび日本の現代美術。

布施玲太郎 | ふせ・りんたろう

1994年東京都生まれ。アーティスト。東京藝術大学大学院映像研究科博士課程前期修了。iPhone発売以降の都市で可能な「新しい孤独」を実践。絵画やテキストによる描写、展覧会や映像の編集などを、様々な人たちと協働しておこなっている。

正清健介 | まさきよ・けんすけ

1984年生まれ。日本学術振興会特別研究員P.D.。一橋大学大学院言語社会研究科博士後期課程修了。博士（学術）。専門は、映画研究。論文に『小津安二郎『お早よう』におけるオナラの音』（『表象』10号、2016年）など。

近藤存志 | こんどう・ありゆき

1971年生まれ。フェリス女学院大学文学部教授。エдинバラ大学大学院博士課程修了。PhD (Edin.)。専門はイギリス芸術文化史、建築史、デザイン史。著書に『時代精神と建築』（知泉書館）、*Robert and James Adam, Architects of the Age of Enlightenment* (London: Routledge)、『光と影で見る近代建築』(KADOKAWA) など。

岡田弥生 | おかだ・やよい

大阪大学大学院文学研究科博士後期課程2年。専門はインドの染織文化。マハトマ・ガンディーの思想がファッショントにおぼした影響について研究している。

佐藤紗良 | さとう・さら

日本学術振興会特別研究員P.D.（東京大学）。大阪大学大学院文学研究科博士後期課程修了。博士（文学）。アルハンブル宮殿の修復史を中心に、歴史的建造物及び庭園修復の諸問題を研究領域とする。